

○学習指導要領が改訂されれば指導案の内容は変わる。主体的・協働的な学び、子供の授業の進行役を書こう。

生徒の活発な話し合いのある学習指導案(略) 第○学年○○科

平成○○年○月○日 対象学級 第○学年○組 指導者名○○○○

- 1 単元名 (小単元)(指導内容の単元名や題材名)
- 2 研究協議会で話し合っしてほしいこと(見通し、学び合い、振り返り、教科目標の4点から)

- (1) 見通し (課題設定)
- (2) 学び合い(言語活動)
- (3) 振り返り
- (4) 教科目標

～授業参観の視点を明示～  
 協議会で中心的に話し合ってもらいたい、授業を観る視点を明らかにする。研究の視点に合わせて(1)見通し(課題設定)(2)学び合い(言語活動)(3)振り返り(4)教科目標の4点について端的にまとめる。

- 3 単元の目標(単元全体を通して、形成しようとするねらい)
- 4 本単元の評価規準

関心・意欲・態度	科学的な思考	技能・表現	知識・理解

- 5 学習指導要領を受けて(目標観)

この単元は、学習指導要領の

本単元が、学習指導要領のどこを受けて設定されたものなのかを明確にする。そこから、どうして本単元を設定したの

目標	~~~~~。
内容(2)	~~~~~。
ア	~~~~~。

を受けて設定したものである。これを受け指導の構想を練る。

- 6 指導計画 全○○時間

次	時	主な学習活動・主な反応	◆留意点 ☆評価
1	1 2		
2	3(本時) 4		
3	5 6		

- 7 主体的に学ぶ場面 (生徒個人がじっくり考え活動する場)
- 8 協働的に学びあう場面 (生徒同士が考えを出したり交流する場)
- 9 教科進行係りが活躍する場面
- 10 「避けたい授業20」から本時で努力する1点(普段から避けたいと考えている項目)

○本時の目標の例文(研究協議会で話し合っただけの内容～その時間で身に付けさせたい力～)\*太文字

(1)見通し(特に課題設定) (2)学び合い(言語活動が中心) (3)振り返り(子供自身の学びの評価) (4)教科目標

I 学習意欲を高める課題の工夫(見通し) [課題の提示・問いをもつ・問いの共有]

- ①導入部分の資料で気付いたことを発表し、疑問をもつたことを課題にすることができる
- ②既習学習や予想とのずれから課題設定をすることができる
- ③ねらいに迫る適切な課題設定ができる
- ④考えたくなる課題提示を工夫する
- ⑤教師と子供がねらいを共有することができる
- ⑥課題提示の仕方を工夫する
- ⑦問いの共有(見通しを持つ)の時間で、全員が大まかな見通し(解答)をもつことができる
- ⑧ゴールを明確化にして、学習の見通しをたてることができる
- ⑨既習事項とつなげ、課題を解決する見通しがもてる
- ⑩分からない子は、「分からない」と言い、分かる子から聞くことができる
- ⑪見通し(解答)をもてない時は、答えから解き方の方法を見つけようとするすることができる
- ⑫学習課題の2段構成(前段は教科目標、後段は「考察」)で

II 話し合いが深まる学び合い(言語活動・交流活動) [自力解決・集団解決(ペア・班・全体)]

- ①考える時間がたくさんある
- ②解けた時は、違う解き方も書くことができる
- ③絵・図・言葉等で自力解決ができる
- ④明確な話し合いの視点で進められる
- ⑤ペア学習の「褒めてアドバイス」ができる
- ⑥ペアやグループで話したり聴いたりすることができる
- ⑦ペアやグループ活動を取り入れ、発言の機会を多くすることができる
- ⑧班学習は「司会者方式・ノート交換・ワークショップ・ノート展覧会」等の方法で進められる
- ⑨論点や立場を明確にした話し合いができる
- ⑩相互司会の方法で子供たち自身が話し合いをする
- ⑪子供同士で意見や考えをつなぐことができる
- ⑫考えを交流して、共通点や相違点に気付くことができる
- ⑬友達の考えと自分の考えと比べて聞くことができる
- ⑭自分の考えの理由や根拠を明確にすることができる
- ⑮相手の意見を聞き、分からないことや曖昧なことには質問をすることができる
- ⑯「つまり〇〇ですね」と自分で解釈したことを伝えられる
- ⑰「他にもあります」「付け加えて言います」等の言語で発表ができる
- ⑱友達の意見にうなづいたり拍手をしたりすることができる
- ⑲言語わざを使うことができる(前の発表者の名前・他者半分自己半分・類似、相違、共通)
- ⑳話す場所で発表できる(自席から出る・前後左右・発言リレー・多角形型発表)
- ㉑まず、意見や調べた事実の単純な意見交換をすることができる
- 22 学習課題に迫る学び合い「考察」をすることができる
- 23 全グループの考えを羅列的に発表しない。行っても短時間で済ませられる
- 24 2～3のグループの考えを取り上げ、自分たちのグループとの違いを見つけられる
- 25 「比較・焦点化・類推・分類・補足・理由・根拠・変容」等の項目で考察を行うことができる
- 26 考察は教師が司会をするのではなく、子供が行うことができる

- 27 教科係が授業進行をすることができる
- 28 肝心な場面がスモールステップとなっていない
- 29 一問一答で進めていない
- 30 自分の考えが変わったことがあったらノートにメモをする
- 31 「メモ」をとるルールを徹底できる
- 32 教師は多弁にならない
- 33 子供の意見や考えを一回一回拾っていない
- 34 教師は板書に徹することができる
- 35 明らかに話し合いが違う方向に進むときは、教師の修正がある
- 36 誤答や意見を巧みに取り上げた授業となっている
- 37 問題解決型のターンで学ぶことができる
- 38 座りっぱなしにはしない



15

### Ⅲ 学んだことが実感できる振り返り(振り返り) [まとめ・振り返り]

- ① 「何が分かったか」「もっと知りたいこと」「友から学んだこと」の3視点でまとめられる
- ② 本時の学習で分かったことをまとめられる
- ③ 気づきや考えの変容を伝え合うことができる
- ④ 自分の考えの変容を書く
- ⑤ 自分の言葉でまとめられる (全体で同じ文言のまとめをしない)
- ⑥ 教師のまとめを写さない
- ⑦ まとめ板書を写さない
- ⑧ 振り返りを毎時間書くことができる
- ⑨ 授業のタイムマネジメント通りに終わられる
- ⑩ 学習状況調査の問題にある「時数制限や条件に合わせて書く活動」と同じようにまとめられる

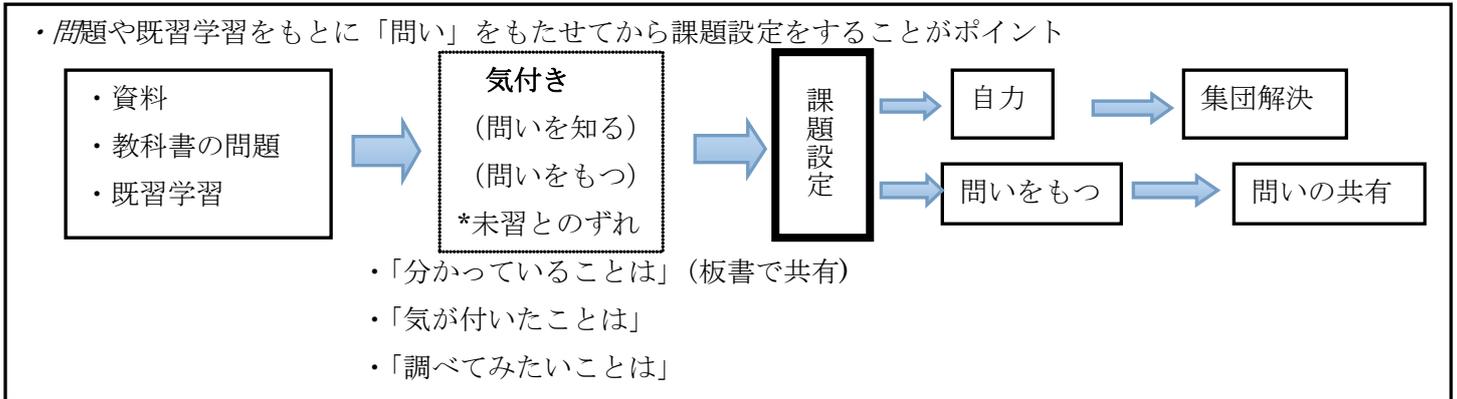
### Ⅳ 教科目標

学習指導要領をまず読み、教科学習の実態から出来ていること、できていないことを明らかにし、付けたい力(指導事項)を明らかにし、それを教科目標とする。

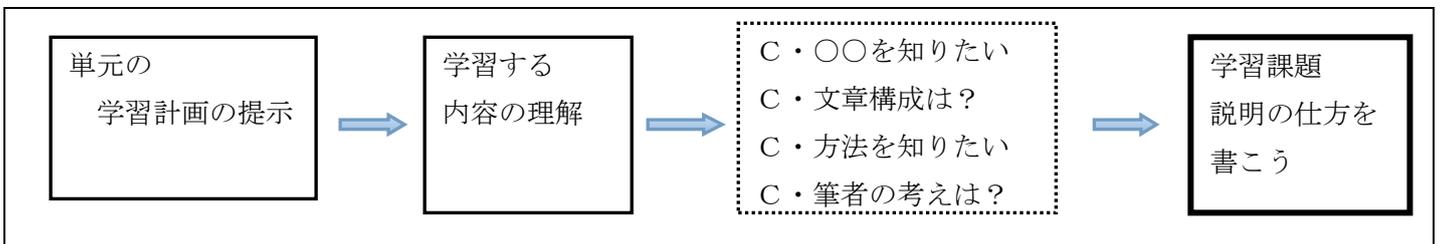
○学習課題の設定方法（子供の学習意欲を高める）

課題の提示が教師側から一方的に行われると、子供の課題解決意欲は高まらない。また、課題が焦点化されていないと本時のねらいに迫ることはできない。基本形を中心に課題設定をするとよい。

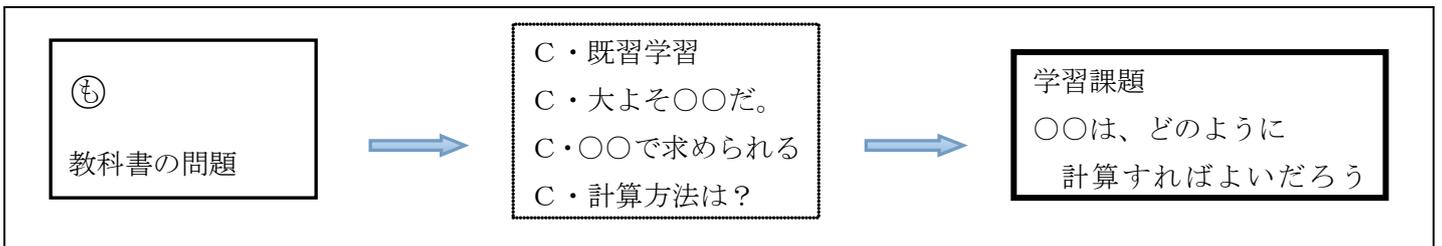
1 基本形



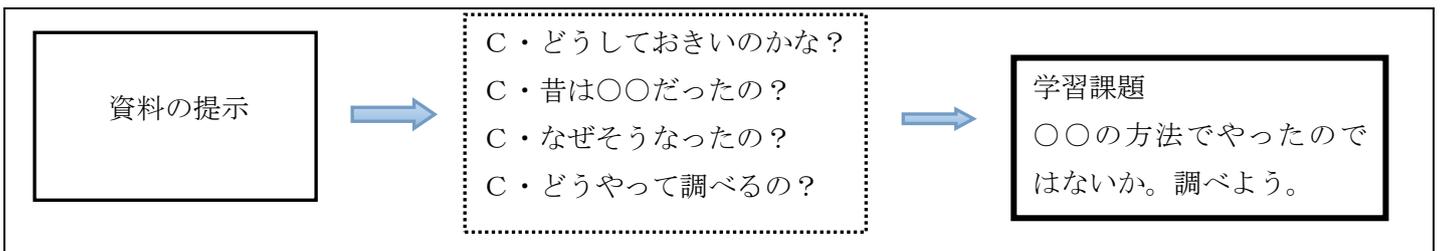
2 国語



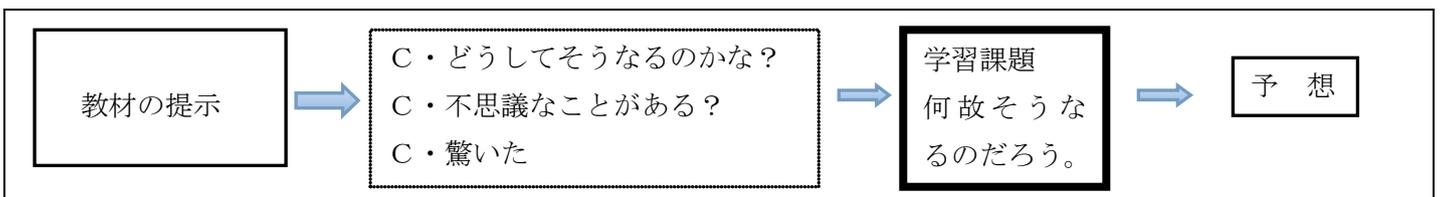
3 算数・数学



4 社会



5 理科



6 家庭科

